

BOOK Review

感染対策40の鉄則

評者

吉田 真紀子 東北大学大学院・総合感染症学



文字通り、一字一句見逃せず無駄な言葉が一つもない、真剣勝負の感染対策の本が発刊された。「感染対策の本」は、既に多数出版されており、その中には良書も少なくない。しかし、本書は、これまでのいかなる書籍とも立ち位置がまったく異なる、まさに“Only One”の書である。

筆者は、聖路加国際病院QIセンター感染管理室に所属し、日々現場で感染対策を実践しておられる坂本史衣さん、公衆衛生学修士(MPH)、感染制御・疫学認定機構による認定(CIC)に裏打ちされる疫学と感染対策の実践者である。

タイトルになっている「鉄則」について、筆者は序文でこう述べている。「鉄則とは、変えてはいけないうる決まりを意味しますが、これらはすべて筆者にとっての鉄則、すなわち感染対策を成功させるために自身が忘れてはならないルールのようなものです」と。本書には、筆者が長年にわたり質の良い情報をこつこつ集め、解析し、それらに基づいて試行錯誤を繰り返し、苦しみ悩みながらたどり着いた鉄則のすべてが惜しみなく紹介されている。また、それだけにとどまらず、1つひとつの鉄則に丁寧に「背景」(こう考える)、「解説」(だから私はこうしている)が記載されており、まるで筆者が目の前にいて、「あなたならどうするの?」とディスカッションを挑まれている気分になる。この理詰めのファイトはかなりの快感である。

鉄則には、このような文章が並ぶ。「鉄則1:手指衛生消毒薬の使用量から手指衛生実施率を知ることはいできない」「鉄則30:『なんとなく』行ったスクリーニング培養検査の結果は、感染源を見誤らせる」「鉄則39:清掃の質管理は、外部

委託業者に任せきりにしない」。誰もが自分のことかとはっとさせられる。しかし、不安になることはなく、背景、解説、まとめを読み進めていくと、明確な解答に出合うことになる。

たとえば、「鉄則23:感染経路別予防策は、感染症の疫学的特徴に合わせてカスタマイズする」では「季節性インフルエンザ」の場合として、飛沫予防策の具体的な対策が図で明確に示されており、読者自身に「自分の施設ではどのように考え、実践すればよいか」を考えさせてくれる内容となっている。

第3章「日常使いの疫学・統計学」では、公衆衛生学修士のバックグラウンドが光る。疫学・統計学が現場で使えるように、しっかりまとめられている。さらに実践のためのグラフの選び方、見せ方の具体例も示されており、読者がサーベイランスデータをまとめるときにすぐに役立つ。もう、何冊も専門書を探す必要はなく、本書の「鉄則」が自分のものになるまで何度も読み返せばよい。まさに座右の書である。

まぎれもなくわが国を代表する一流の感染対策実践者が本気で自らの財産を全てさらけ出した本書を手にした以上、私達ももう実践あるのみ。あとはやるしかない。帯の「医療関連感染対策を成功させよう!」という言葉の通り、多くの方々が本書により成功経験を積み、わが国の臨床現場から少しでも医療関連感染が減少していくことを願ってやまない。

坂本 史衣 著

A5判/168頁/2016年/定価(本体2,800円+税)/ISBN978-4-260-02797-7/医学書院 刊